

| 普通期水稻でのイネウンカ類に対する育苗箱処理   | 分類  | 普及情報         |
|--|-----|--------------|
| <p>〔要約〕イネウンカ類による飛来直後の被害および飛来次世代虫の発生を抑えるには、「プリンス、アドマイヤー剤混合粒剤」あるいは「プリンス剤＋アドマイヤー顆粒水和剤（灌注）」が有効であるが、稲作後期には本田防除を考慮する必要がある。</p> |     |              |
| 生産環境部病理昆虫研究室   | 連絡先 | 099-245-1155 |

#### 〔背景・ねらい〕

平成17年以降、普通期水稻においてセジロウンカによる産卵痕被害やトビロウンカによる坪枯れの発生が多く認められている。既存の箱施薬剤であるプリンス剤はトビロウンカに対して効果が高い反面、セジロウンカに対して感受性が低く、アドマイヤー剤はセジロウンカに効果が高いが初秋期のトビロウンカまで抑制するには効力不足を生じている。そこでセジロウンカ、トビロウンカの両種を防除できる育苗箱処理として「嵐プリンスアドマイヤー箱粒剤」、「嵐プリンス箱粒剤10＋アドマイヤー顆粒水和剤」の防除効果を検討する。

#### 〔成果の内容・特徴〕

- 1 「嵐プリンスアドマイヤー箱粒剤」および「嵐プリンス箱粒剤10＋アドマイヤー顆粒水和剤」はセジロウンカ産卵痕によるイネ葉鞘褐変被害を抑制できる（表1）。
- 2 「嵐プリンスアドマイヤー箱粒剤」および「嵐プリンス箱粒剤10＋アドマイヤー顆粒水和剤」は飛来次世代のセジロウンカおよびトビロウンカの発生を抑制する（図1，2）。
- 3 「嵐プリンスアドマイヤー箱粒剤」および「嵐プリンス箱粒剤10＋アドマイヤー顆粒水和剤」のいずれを用いても8月下旬からのトビロウンカ第2，3世代の発生が見られ，8月以降に本田での追加防除を要する場合がある（図2）。

#### 〔成果の活用面・留意点〕

- 1 普及対象地域は県内の普通期水稻栽培地域である。
- 2 「嵐プリンスアドマイヤー箱粒剤」の使用量は育苗箱1箱当り50gで，使用時期は移植2日前～移植当日である。
- 3 「嵐プリンス箱粒剤10」の使用量は育苗箱1箱当り50gで，使用時期は播種時（覆土前）～移植当日，「アドマイヤー顆粒水和剤」の希釈倍数は500倍で，使用量は育苗箱1箱当たりに500ml，使用時期は移植2日前～当日である。
- 4 「嵐プリンス箱粒剤10＋アドマイヤー顆粒水和剤」の価格は「嵐プリンスアドマイヤー箱粒剤」に比べて安価であるが，アドマイヤー顆粒水和剤の灌注作業が必要である。

〔具体的なデータ〕

表1 ウンカ類による水稲の被害度の推移(平成19年6月19日移植)

| 区                             | 6/27<br>(+8) | 7/ 5<br>(+16) | 7/12<br>(+23) |
|-------------------------------|--------------|---------------|---------------|
| 1. 嵐プリンスアドマイヤー箱粒剤             | 0            | 3             | 12            |
| 2. 嵐プリンス箱粒剤10+<br>アドマイヤー顆粒水和剤 | 0            | 2             | 15            |
| 3. アドマイヤー箱粒剤                  | 0            | 1             | 13            |
| 4. プリンス粒剤                     | 0            | 23            | 98            |
| 5. 無処理                        | 0            | 56            | 100           |

被害度：全株、全茎被害の場合100。( )は箱処理剤の処理後日数。

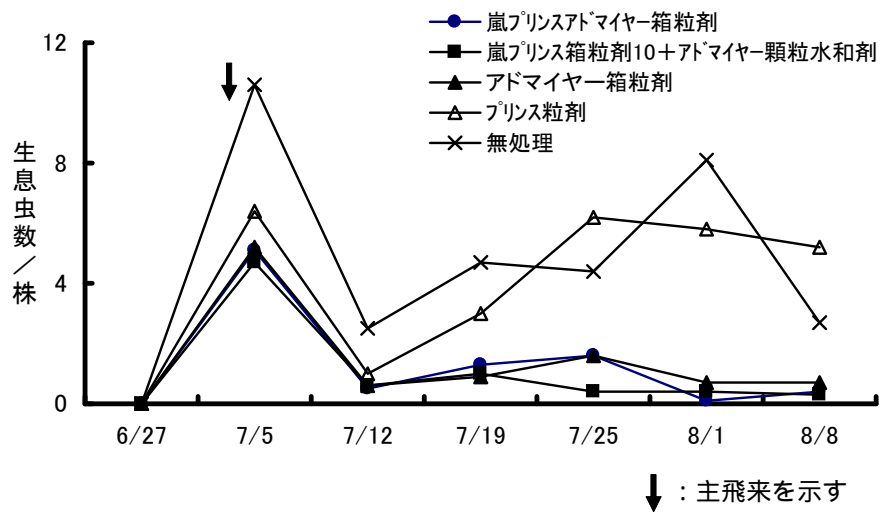


図1 セジロウンカの生息虫数の推移(平成19年)

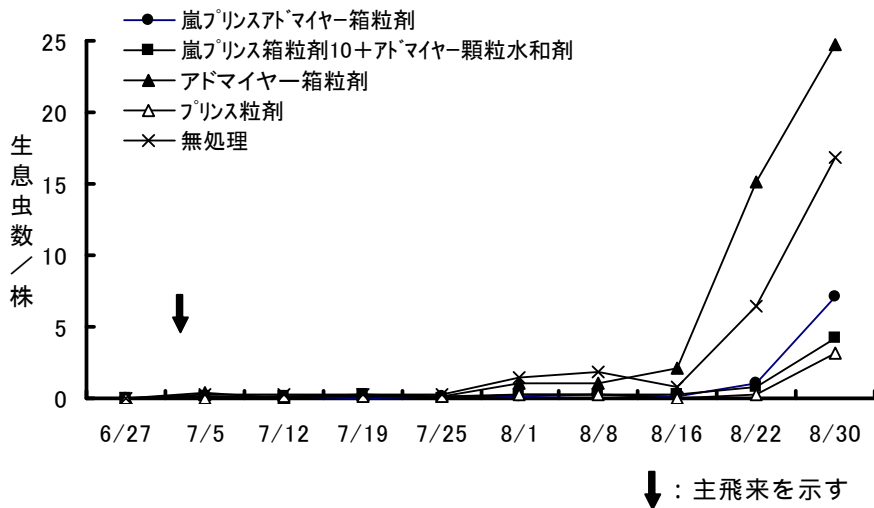


図2 トビイロウンカの生息虫数の推移(平成19年)

〔その他〕

研究課題名：普通作病虫害防除に関する試験

予算区分：国庫(特定)

研究期間：平成19年度